

平成 30 年 12 月 21 日
観 測 部
地 球 環 境 ・ 海 洋 部

2018 年（平成 30 年）の日本の天候（速報）

2018 年（平成 30 年）は、冬は全国的に気温が低く北陸地方中心に大雪となりました。春から夏にかけては東・西日本中心に記録的な高温となり、東日本では年平均気温も記録的に高くなりました。「平成 30 年 7 月豪雨」など全国各地で大雨が発生しました。

2018 年（平成 30 年）の日本の天候の特徴は以下のとおりです。

○冬は全国的に低温となり、北陸地方中心に大雪となりました
冬は、日本付近にはしばしば強い寒気が南下し、冬の平均気温は全国的に低く、特に西日本では平年差-1.2 と過去 32 年間で最も低くなりました。日本海側では北陸地方を中心に大雪になり、交通障害が発生しました。

○春から夏にかけては東・西日本中心に記録的な高温となりました
春から夏にかけては、東・西日本中心に記録的な高温となりました。特に夏は多くの地方で梅雨明けがかなり早く、厳しい暑さが続きました。熊谷では 7 月 23 日に 41.1 の国内歴代 1 位の高温を記録しました。東日本では、春の平均気温（平年差+2.0）、夏の平均気温（平年差+1.7）ともに 1946 年の統計開始以来最も高く、年平均気温（平年差+1.1）も 1946 年の統計開始以来最も高くなりました。

○「平成 30 年 7 月豪雨」の発生により西日本中心に記録的な大雨となりました
7 月上旬は、本州付近に梅雨前線が停滞し、南から大量の湿った空気が流れ込んだため、西日本中心に数日にわたり記録的な大雨となり、土砂災害や河川の氾濫など甚大な被害が発生しました。

別紙（概況、統計値等）[PDF 形式:569KB]

https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/stat/tenko2018_soku_besshi.pdf

本資料は、12 月 20 日までの観測データをもとに速報としてまとめたものです。
12 月 31 日までの観測データによる資料は平成 31 年 1 月 4 日に発表します。

問合せ先：観測部 計画課情報管理室 担当 青木(観測値や記録について)
電話 03-3212-8341 (内線 4154) FAX 03-3217-3615
地球環境・海洋部 気候情報課 担当 竹川(天候の解説について)
電話 03-3212-8341 (内線 3154) FAX 03-3211-8406